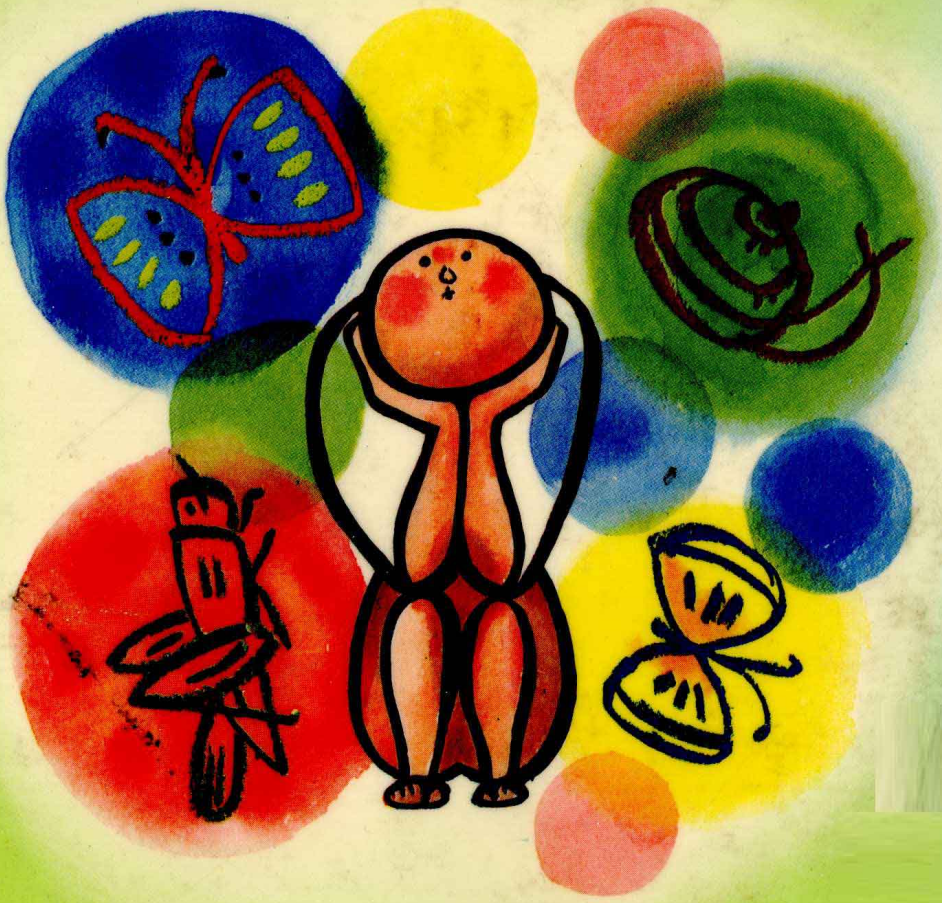
新版

焉学校劇集 4

岡田　陽
落合聰三郎　編



玉学校劇集 4

岡田　陽
落合聰三郎　編

玉川大学出版部

新版 玉川学校劇集 4

昭和四六年一一月二〇日 第一刷
昭和五四年一月二三日 第四刷

編者 岡田陽
落合聰三郎

発行者 小原哲郎

発行所 玉川大学出版部
東京都町田市玉川学園
TEL 〇四二七(三二)九一一一
振替 東京八一二六六五
郵便番号 一九四

印刷・製本 ケイエムエス

編者との申合せ
により検印廃止

万一乱丁落丁がありましたらお取替えします

(分) 2337 (製) 14053 (出) 4355

日本音楽著作権協会第7809665号承認済

目次

低学年向き

こうちょう先生は おともだち　小林嘉彦　2

みっちゃんたちのボールが、校長室の窓から飛びこんでしまった。みんなが困っていると、みよちゃんは校長先生はやさしそうだという。校長先生と子どもたちの心あたたまる交流をえがいた作品。

おおかみと七匹の子やぎ　岡田陽　16

母やぎが留守をしている間に、おおかみにくわれてしまった子やぎたちを、母やぎはおそれず勇気をもってとりもどすという、だれでも知っているグリム童話を、かわいい音楽劇に脚色したもの。

赤ずきん　金平正　48

赤ずきんちゃんは、こわいおおかみがいるとも知らず、おばあちゃんちへおつかいに……。大ぜいの観客になる子どもたちを舞台に配して、劇の進行を助けながら、学級全員で楽しくつくりあげていく名作音楽劇。

中学年向き

手ぶくろちょうだい　原作 新美南吉　菱沼太郎　66

子ぎつねが、右手だけをおとうさんから人間の手にかえてもらって、町へ手ぶくろを買いに出かける。ところがまちがって、左手を出してしまう。やさしい洋品屋の主人は、その手にそっと手ぶくろをはめてくれる。

おめん　落合聰三郎　84

あきらとつとむは、おにのおめんを作って遊んでいるうち、遊びにきた子どもをおどかそうとして、反対におどかされる。おにに関連した童話や物語をまねて、遊んでいるうち、物売りの学生に叱られる。

高学年向き

三つのパントマイム　栗原一登　98

どんな場所でも、手軽に上演できる小さな無言劇三つ。〈さか道〉〈ひろった宝石〉〈忘れられたかご〉。ことばの助けを借りず、身振りだけで思いきって、楽しく表現してみよう。

おりづる　滝井純　112

みどりの心臓の手術はいよいよ今日だ。成功を願う友だちは、春休みの教室に集まって、つるをおりながらその結果を知らせる電話を待っている。しかし大作はこのみんなの気持に一つ一つっかかる。

おおかみがきた　生越嘉治　140

ここはうさぎの国。「おおかみがきた」と逃げまわるうさぎたちを、にやにや眺めているのはデマをとばしたカタミミ。オオミミはうそと知って仕返しにもどってきた。その上、ほんとうのオオカミまでがあらわれた。

よぶこどり　原作 浜田広介　田島義雄　164

子どものいないりすが、一生懸命に卵をかえし、ひなを育てました。ひなとりすは仲良くくらしていましたが、ひなは自分の生い立ちを知り遠い空に旅立っていきました。ひなを思うりすの心は……。美しい抒情的な作品。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

火　岡田陽　192

鹿をみごとに射とめた村一番の勇者は、ほんとうにアズサなのか。アズサとその栄光を争ったオジカはどこへ行ったのか。古代の火置き場を舞台にくりひろげられる人間と人間の真実のたたかい。

絵・舞台装置図　佐藤和男

こうちょう先生は おともだち

〈低学年向き〉

小林嘉彦　作

おとなの男1人
（本当の校長先生がよい）

男　子　3人

女　子　1人

時　間　10分

出てくるひと

こうちょうせんせい
みっちゃん
ごろちゃん
さぶちゃん
みよちゃん

ここは、こうちょうせんせいのへやのまえのろうかです。(1)ドアやまどはあけはなしてあります。そうっと、さぶちゃんとごろちゃんとみっちゃんがでてきました。(2)こうちょうしつのまどから、そっと中をのぞいてみます。(3)

ごろちゃん　さぶちゃん、だれもいないよ。

さぶちゃん　ほんとだ。

みっちゃん　よかったね。(4)

ごろちゃん　いまのうちに、ボールとろうか。

さぶちゃん　だまってはいったら、おこられるかもしれないよ。

みっちゃん　さぶちゃんが、なげたボールが、はいったんだよ。(すこしおこって)(5)

さぶちゃん　だって。(6)

ごろちゃん　ぼく、のぞいてみる。

演出の手引き

(1)　舞台は校長室のドアと窓だけの簡単なものでよい。部屋の中は机と椅子を置く。

(2)　三人が登場するとき大げさな演技にならないようにする。子どもらしく少しびくびくしながら、お互いに先をゆずり合いながら出てくる。

(3)　ここは後向きの演技が多くなる。それを意識して前向きにさせようとすると、わざとらしく不自然な動きになってしまう。そうしたことにはあまりこだわらない方がよい。窓から三人でのぞく時、一緒にのぞくのではなくて、一人がのぞいてから、他の二人を呼ぶとか、かわりばんにのぞくなど、舞台に動きが出るように、子どもたちにくふうさせたい。

(4)　誰もいないことを知って一応安心はするものの、緊張はとけない。

(5)　三人はもともと仲よしなので、本気でおこっているのではない。

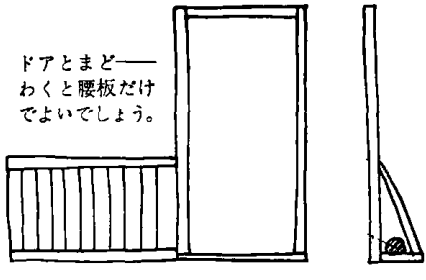
(6)　責任は感じているのだが、誰もいない校長室にはいってさがす勇気はない。

(7)　窓やあいたドアから、校長室の中を眺めるのではなく、部屋の中にころがりこんだボールをさがすのだから、当然いろいろな角度からのぞくことになる。誰もいないことは

ごろちゃんはそうっと、まどからのぞきました。(7)
みっちゃんもそうっと、ドアからのぞきました。

ごろちゃん　みえないね。
みっちゃん　みえないね。
ごろちゃん　どこへいったのかな。
みっちゃん　どこへいったのかな。
ごろちゃん　こうちょうせんせいのつくえの、むこうかもしれないね。
みっちゃん　つくえのむこうかもしれないね。
さぶちゃん　(うしろからみていましたが、ニコッとわらって)こらっ。(8)
ごろちゃん
みっちゃん　(とびあがりました)わあっ。(9)
さぶちゃん　あはは……。
ごろちゃん　なにするんだい。
みっちゃん　おどかしたな。
さぶちゃん　(わらいながら)ごめん、ごめん。
みっちゃん　ごめんじゃすまないよ、ね、ごろちゃん。
ごろちゃん　しんぞうが、ドキドキしちゃった。

わかっていても、少しびくびくしながらのぞいている。
少しはなれた所から二人の動きを見ているさぶちゃんの動きも考えさせたい。ただ立っていたのでは不自然である。
(8)　さぶちゃんは二人が犬のようにはったり、背のびしたりしてのぞきこんでいるのを見て、少しふざけ気分を起こしたのである。
(9)　こうした場面は実生活の中でも多く見られる。経験を中心に話し合って、わざとらしくならないようにしたい。



みっちゃん　じぶんで、ボールほうったくせに。

ごろちゃん　こんど、さぶちゃん、のぞいてみろよ。

みっちゃん　そうだよ。（つよく）

さぶちゃん　うん。（そっと、ドアにちかよりました）(10)

さぶちゃん　どこへいったのかな。

ごろちゃん　ね、みえないだろう。

さぶちゃん　つくえの、したのほうに、ころがったのかな。（ろうかに、はってのぞきました）(11)

みっちゃん　みえない。

さぶちゃん　おかしいな、どこへいったんだろ。

ごろちゃんは、そうっとちかよると、わあっ、と大きな声でおどしました。(12)

さぶちゃん　（とびあがりました）わあっ。(13)

ごろちゃん　あはははは……。

みっちゃん　あはははは……、さぶちゃんのかお。

さぶちゃん　ひどいな。

ごろちゃん　あいこだよ。

さぶちゃん　しんぞうが、ドキドキしてるよ。(14)

(10) 二人に強くいわれて、少ししおれながらドアに近よる。

(11) のぞき方が同じような調子にならないように、それぞれの性格なども考えて演技させたい。
　始めはこわごわのぞいているが、だんだん大胆になって、少し校長室にはいりかける。

(12) さぶちゃんが校長室にはいりかけるのを見て、ごろちゃんはさっきの仕返しを思いつく、みっちゃんと目で合図しながらやるのもよい。

(13) 腹ばいになっていたさぶちゃんは、大あわてで飛び出してくる。

(14) 胸を大げさになでたりする説明的な演技にならないように。

みっちゃん　あいこ、あいこ。
さぶちゃん　そんなのないよ。ひどいや。(15)
ごろちゃん　ボール、みつかんないね。
みっちゃん　みつからないとこまるね。
ごろちゃん　さぶちゃんのせきにんだよ。
さぶちゃん　だって。
ごろちゃん　さぶちゃん、さがしてこいよ。
さぶちゃん　やだよ。(16)
みっちゃん　ボールみつからないとこまるな。

しばらく、みんなだまってしまいました。(17)

さぶちゃん　ごろちゃん、いっしょにはいって。(18)
ごろちゃん　やだよ。
さぶちゃん　みっちゃんいっしょにはいって。
みっちゃん　やだよ。

しばらく、みんなだまってしまいました。(19)

さぶちゃん　こうちょうせんせい、こわそうだものね。

(15) さっきのことがあるので、おこるわけにいかない。

(16) 責任は十分感じるが、一人で校長室の中にはいってさがす度胸はない。「やだよ」という声も弱い。

(17) みっちゃんのしょんぼりするのを見ると、さぶちゃんも胸がいたむ。ごろちゃんも、さぶちゃんの責任だとはいっても、自分もいっしょにやっていたのだから、やはり責任を感じている。三人三様の思いで立つ。

(18) やっと校長室にはいる決心をしても、一人ではいれない。

(19) ボールは欲しいが、校長室にはいっていく勇気は出ない。三人はお互いに顔を見合わせるだけである。

この辺の場面は動きが少なく、低学年にはむずかしいところである。三人にそれぞれグローブやバットなどを持たせると、自然な動きが出てきて、立ちん坊にならない。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

みっちゃん　いつも、むねはってあるいているよ。
さぶちゃん　めがねかけてるもんね。
みっちゃん　ギョロってみるもんね。
ごろちゃん　うちのおかあちゃん、いつもいってるよ、こわいぞって。
みっちゃん　やだな。
さぶちゃん　どうしよう。

　そのときみよちゃんが、お花をしんぶんしにくるんで、でてきました。(20)

みよちゃん　さぶちゃん、なにしているの。
さぶちゃん　ボールが、はいっちゃったんだよ。
みよちゃん　はいってさがせば。(21)
ごろちゃん　だってね。(みっちゃんのかおをみました)
みっちゃん　うん。
さぶちゃん　だまってはいったら、しかられるよ、きっと。
みよちゃん　じゃあ、こうちょうせんせいにいえば。
さぶちゃん　だって、ね。(ごろちゃんのかおをみました)(22)
ごろちゃん　うん。
みよちゃん　どうして。

(20)　誰もいないと思って来た校長室の前に、さぶちゃんたちがいるので不思議に思う。そして、持ってきた花の包みを後ろにかくす。

(21)　校長先生を別にこわいとも思っていないみよちゃんには、さぶちゃんたちの気持はわからない。

(22)　このせりふは二度目です。くり返しのおもしろさを生かすように、くふうしたい。

みっちゃん　だってこうちょうせんせい、めがねかけているだろう。
さぶちゃん　ギョロっとみるんだもの。
みっちゃん　こわいおじさんみたいだもの。
みよちゃん　そうかしら。(23)
さぶちゃん　そうだよ。
ごろちゃん　こまったな。(24)
さぶちゃん　どうしよう。
みっちゃん　また、あとでこようか。(25)
ごろちゃん　うん。
さぶちゃん　（ふときがついて）あれ、みよちゃん、なにもってるの。(26)
みよちゃん　なんでもないわ。(27)
さぶちゃん　なんでもないって、なにもってるの。
みよちゃん　なんでもないわよ。
ごろちゃん　みせなよ。
みよちゃん　いいことですもの。(28)
みっちゃん　いいことって。
さぶちゃん　おしえてよ、ね、いいだろ。
ごろちゃん　（そっとうしろをまわって）あ、花だ。(29)

(23) どうしてもみよちゃんにとっては、男の子たちの考え方はわからない。
(24) こまったなあと、お互いに顔を見合わせる。オーバーな演技にならないように、持ち道具などを有効に使いたい。
(25) とうとう弱気になって、ボールをあきらめようとも思う。でも、やっぱり。
(26) 今までは自分たちのボールのことに夢中で、みよちゃんの現われた理由など考えてもみなかった。後ろにかくした紙包みに気がついて、ふしぎに思う。
(27) 少しあわててとぼける。
(28) 教えてやりたいような、教えたくないような、くすぐったいみよちゃんの気持。
(29) かくすとなおさら見たくなる。とうとう花を見つけた。ふしぎなものを見つけたように驚く。

みっちゃん　え、花。
さぶちゃん　花、どうするの。
みよちゃん　いいことするの。(30)
さぶちゃん　ね。おしえて、いいことって。
みっちゃん　おしえたっていいじゃないか。
みよちゃん　こうちょうせんせい、どこへいったのかしら。(31)
ごろちゃん　さっきから、いないんだよ。(32)
さぶちゃん　こうちょうせんせいに、ようがあるの。
みよちゃん　ううん、なんでもないの。(33)
ごろちゃん　わかった。
さぶちゃん　なにがわかったんだい。
ごろちゃん　みよちゃんの、いいことさ。(34)
みっちゃん　なに、なに、おしえて。
ごろちゃん　その花、こうちょうせんせいに、あげるんだろう。
みよちゃん　ふふん。(すこしわらいました)(35)
ごろちゃん　わあかった、わあかった。(ふしをつけて、うたうように)(36)
さぶちゃん　わあかった、わあかった。
みっちゃん　わあかった、わあかった。(37)

(30) みよちゃんは少し得意である。だがわざと教えない。別に意地悪をしているのではないのだが。

(31) みっちゃんたちの追求をそらせる。

(32) 急に自分たちの問題にひきもどされたように感じて、三人とも少ししょんぼりする。

(33) 自分の思いつきが楽しくて落ちつかない。すぐにもみんなに教えたいのだが、わざと教えない。

(34) かくしたってわかるぞ、と少し得意そうな様子。

(35) 言いあてられて少し恥ずかしそうに、そして少し得意そうに笑う。

(36) ごろちゃんたちは、自分たちの困った事情などすっかり忘れて、大喜びをしている。

(37) にぎやかにはやしたてる。

みよちゃん　やだなあ、だれにもおしえないでね。(38)
ごろちゃん　うん。
みよちゃん　きょうしつは、お花あるけど。
さぶちゃん　こうちょうしつ、お花ないね。
みよちゃん　こうちょうせんせい。いつもひとりね。
ごろちゃん　かわいそうだね。
みよちゃん　だから、お花もってきたのよ。
みんな　わあかった、わあかった。(39)
ごろちゃん　だけど、みよちゃん、へいき。
みよちゃん　へいきよ。
みっちゃん　そうかな。(40)
みよちゃん　うちのおとうさんに、にてるから、やさしいわよ。
さぶちゃん　うちのおとうさんに、にてると、こわいよ。
ごろちゃん　だれに、にてるかな。

しばらくみんなだまっています。(41)

みよちゃん　ほら、あたま。
みんな　ふふふ……。

(38) せっかく一人でやろうとしたいいことを、みんなに知られては困る。

(39) みよちゃんのいいことがわかったので、大さわぎして喜ぶ。

(40) みよちゃんが平気で校長先生に花を持ってこられるのが、みっちゃんたちにはわからないことである。

(41) それぞれの家の父を思い出して、校長先生と比較しながら考えている。

みよちゃん　ね、うちのおとうさんよ。(42)
みっちゃん　やさしいといいな。(43)

こうちょうせんせいがでてきました。(44)

こうちょう　みんな、なにしているの。
みよちゃん　あ、こうちょうせんせい。
みんな　こうちょうせんせい。(ちょうしをつけて)(45)
こうちょう　はあい。(ちょうしをつけて)(46)
みよちゃん　こうちょうせんせい、お花。
こうちょう　あれ、きれいな花、ぼくにくれるの。
みよちゃん　うん。
こうちょう　どうもありがとう。おへやがあかるくなるな。
ごろちゃん　こうちょうせんせい、うれしい。(47)
こうちょう　うれしいな。
みっちゃん　こうちょうせんせい、やさしいね。(48)
こうちょう　やさしいよ。
さぶちゃん　こうちょうせんせい、ひとりでいて、さびしくない。
こうちょう　さびしいな。

(42)　みよちゃんは、校長先生と自分の父とが似ているので、こわくないらしい。
(43)　みっちゃんの心からのことばである。部屋の中にころがりこんだボールを目でさがす。
(44)　校長先生はぜひ本当の校長先生に出演してもらいたい。子どもでは絶対にうまくいかない。

(45)　少しこわいが、でも親しみと尊敬をこめて。
(46)　子どもにかえったように、明るくそして子どもっぽく返事をする。

(47)　花をもらって喜ぶようなら、やさしい先生だな、と期待しながら聞く。

(48)　ほっとした思いで。

ごろちゃん　こんど、ぼくたちあそんでやるよ。(49)

こうちょう　うれしいな。

さぶちゃん　それからね。(50)

こうちょう　なんだい。

さぶちゃん　ごめんね。

こうちょう　なにか、いたずらしたな。

さぶちゃん　うん。

ごろちゃん　ここに、ボールはいっちゃったの。(51)

こうちょう　なあんだ、そうか。はやくいえばいいのに。

こうちょうせんせいは、へやにはいって花をかざり、ボールをさがしてくれました。(52)

こうちょう　とだなのかげにとびこんでたよ。

みっちゃん　あんなとこだもの、わかんないよね。

ごろちゃん　こうちょうせんせい、ありがとう。

みんな　ありがとう。

みよちゃん　よかったわね。

さぶちゃん　みんな、いこう。

(49) 一人でいつもいる校長先生が、急にかわいそうになって、つい友だちのような気持になる。

(50) それでも少しこわごわときり出す。

(51) 思いきったように、やっと言える。

(52) 校長先生が部屋の中で、ボールをさがしてくれている間、子どもたちはドアにつかまって中をのぞいたり、窓からのぞきこんだりする。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com